

抽象概念解析入門第3回

- 束の基本概念

Copyright (C) 2001 by Toru Tsujishita

Last modified 2001/10/25

順序関係の定義

集合 X 上の 2 項関係 $x \preceq y$ が順序関係 $\stackrel{def}{\iff}$

(反射律) $x \preceq x$.

(推移律) $x \preceq y$ かつ $y \preceq z$ ならば $x \preceq z$.

(反対称律) $x \preceq y$ かつ $y \preceq x$ ならば $x = y$.

(X, \preceq) : 順序集合 (poset)

双対順序関係 \preceq^* :

$$x \preceq^* y \stackrel{def}{\iff} y \preceq x.$$

$P^\circ := (X, \preceq^*)$: 順序集合 $P = (X, \preceq)$ の双対.

例

- べき集合. $(\text{pow}(X), \subseteq)$
- $(\mathbb{N}, |)$: 自然数の集合と整除関係.

$$n \preceq m \stackrel{\text{def}}{\iff} n \text{ は } m \text{ を割り切る.}$$

- $(\mathbb{Z}_+, |)$: 非負整数全体と整除関係。 $0 \preceq 0$ と定義。
 $a \neq 0$ のとき $a \preceq 0$.
- 語の集合. Σ^* : アルファベット Σ 上の有限語の集合.

$$w \sqsubseteq v \stackrel{\text{def}}{\iff} w \text{ が } v \text{ の接頭語.}$$

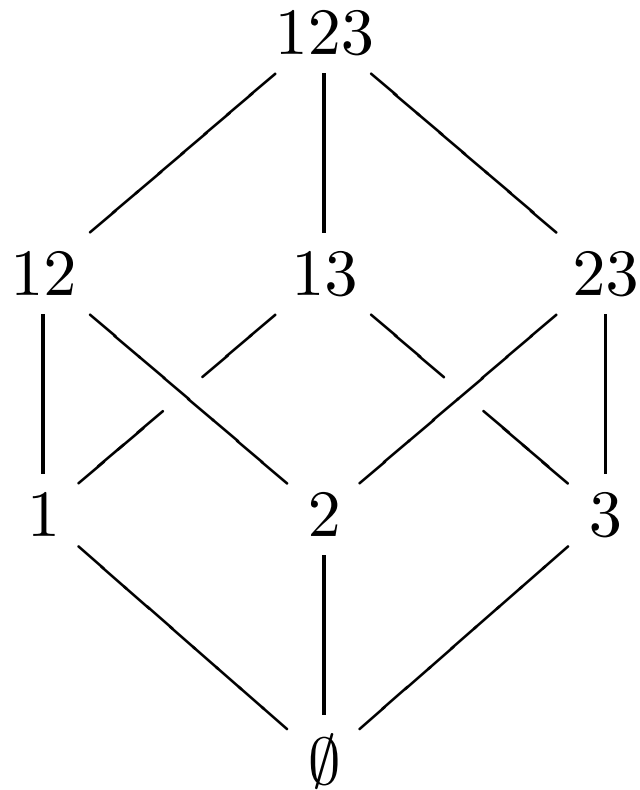
注意: Σ^* は空語 Λ を含む.

- 命題論理式の論理同値類. $Prop(V)$

$$p \preceq q \stackrel{def}{\iff} p \Rightarrow q \text{ がトートロジー}$$

べき集合 $\text{pow}(X)$ の Hasse 図

ただし, 例えば 12 は集合 $\{1, 2\}$ を表す.



最大と極大

(X, \preceq) : 順序集合.

- M が X の最大元 (the greatest element) $\stackrel{def}{\iff}$
 $\forall x \in X [x \preceq M]$
最大元は存在すれば唯一。存在するとは限らない。
- M が X の極大元 (a maximal element) $\stackrel{def}{\iff}$ M より大きな元が存在しない
- 双対概念：最小元 (the least element), 極小元 (a minimal element) .
- 最大元の記号： $\top, 1$.
- 最小元の記号： $\perp, 0$.

上限の概念

(X, \preceq) : 順序集合, $A \subseteq X$ とする。

• x が A の **上界** $\stackrel{def}{\iff} a \in A$ ならば $a \preceq x$.

• **$\uparrow A$** : A の上界の全体.
 $X := \uparrow \emptyset$.

• **$\bigvee A$** := A の最小上界.

A の **上限** (supremum, join) と呼ぶ (存在するとは限らない)。

– $a \vee b := \bigvee \{ a, b \}$.

– $\bigvee \emptyset$ は最小元.

• 双対概念 : 下限 (infimum, meet), $\bigwedge A, a \wedge b$.

補題

$m = \bigvee A$ は以下と同値 :

$$m \preceq x$$

A の任意の元 a について $a \preceq x$.

べき集合 $\text{pow}(X)$ での上限と下限

$A = \{ x_i \mid i \in I \}$ のとき、

$$\bigvee_i x_i = \bigcup_i x_i$$

$$\bigwedge_i x_i = \bigcap_i x_i.$$

証明

合併集合の特長付け

$$\forall i [x_i \subseteq y] \Leftrightarrow \bigcup_i x_i \subseteq y.$$

より

自然数と整除関係での上限は最小公倍数

$a, b \in \mathbb{N}$ のとき、

- $a \vee b$ は a, b の最小公倍数。
- $a \wedge b$ は a, b の最大公約数。

語の集合 Σ^* での上限と下限

$A \subseteq \Sigma^*$ のとき、

- $\bigvee A$ が存在 $\Leftrightarrow A$ の元は、ある一つ語の prefix.
 $\bigvee A$ が存在しない方が普通。
- A が空でないとき $\bigwedge A = \Lambda$.

$Prop(V)$ での下限は論理積

$[p], [q] \in Prop(V)$ に対し、

$$[p] \wedge [q] = [p \wedge q].$$

証明. 任意の論理式 r に対し

$$[r] \preceq [p] \text{ かつ } [r] \preceq [q]$$

$$r \Rightarrow p \text{ かつ } r \Rightarrow q$$

$$r \Rightarrow p \wedge q$$

$$[r] \preceq [p \wedge q]. \blacksquare$$

有限個の論理式 p_1, \dots, p_n についても

$$\bigwedge_i [p_i] = [p_1 \wedge p_2 \wedge \dots \wedge p_n].$$

「無限論理」では無限個の論理式の下限も存在。

$Prop(V)$ での上限は論理和

$[p], [q] \in Prop(V)$ に対し、

$$[p] \vee [q] = [p \vee q].$$

証明. 任意の論理式 r に対し

$$[p] \preceq [r] \text{ かつ } [q] \preceq [r]$$

$$p \Rightarrow r \text{ かつ } q \Rightarrow r$$

$$p \vee q \Rightarrow r$$

$$[p \vee q] \preceq [r]. \blacksquare$$

有限個の論理式 p_1, \dots, p_n についても

$$\bigvee_i [p_i] = [p_1 \vee p_2 \vee \dots \vee p_n].$$

「無限論理」では無限個の論理式の上限も存在。

完備性の定義

- 順序集合が完備束 $\stackrel{def}{\iff}$ すべての部分集合が上限と下限を持つ。
- 順序集合が完備上半束 $\stackrel{def}{\iff}$ すべての部分集合が上限を持つ。
- 順序集合が完備下半束 $\stackrel{def}{\iff}$ すべての部分集合が下限を持つ。

命題. 完備束 \iff 完備上半束 \iff 完備下半束

証明. 順序集合 (X, \preceq) が完備上半束とする。 A を任意の集合とするとき $A = \downarrow A$. ■

束の定義

- 順序集合が束 $\stackrel{def}{\iff}$ すべての有限部分集合が上限と下限を持つ。
- 順序集合が上半束 $\stackrel{def}{\iff}$ すべての有限部分集合が上限を持つ。
- 順序集合が下半束 $\stackrel{def}{\iff}$ すべての有限部分集合が下限を持つ。

命題. 有限順序集合については束 \iff 上半束 \iff 下半束.

$(\mathbb{N}, |)$ は、上半束だが束ではない (最大限がない)。

完備束の例

- べき集合 $(\text{pow}(X), \subseteq)$ は完備束。
- $(\mathbb{Z}_+, |)$.

完備束の例 2 : \cap -closed な集合族

- 集合族 $\mathcal{Y} \subseteq \text{pow}(X)$ が \cap -closed $\stackrel{def}{\iff}$
 $\mathcal{Z} \subseteq \mathcal{Y}$ ならば、 $\bigcap \mathcal{Z} \in \mathcal{Y}$
ただし、 $\bigcap \emptyset = X$ と約束する。従って、 \cap -closed な
集合族は全体集合を含んでいる。
-

命題 \cap -closed な部分集合族 $\mathcal{Y} \subseteq \text{pow}(X)$ は完備で

- $\bigwedge_i A_i = \bigcap_i A_i$
- $\bigvee_i A_i = \overline{\bigcup_i A_i}$.

ただし、

$$\overline{B} = \bigcap_{Y \in \mathcal{Y}, Y \supseteq B} Y.$$

完備束の例 2 – 1 : 線形部分空間の完備束

- $Sub(V)$ をベクトル空間 V の部分空間の全体。
- $Sub(V)$ は \cap -closed. (部分空間族の交わりは部分空間となるから)
- $Sub(V)$ は完備束。
- $\bigwedge_i V_i = \bigcap_i V_i$.
- $\bigvee_i V_i = \Sigma_i V_i:V_i$ の和空間。

(証明：部分集合 A を含む最小の部分空間は、 A が張る部分空間)

完備束の例 2 - 2 : 部分群の完備束

- $Sub(G)$ を群 G の部分群の全体。
- $Sub(G)$ は \cap -closed. (部分群の交わりは部分群となるから)
- $Sub(G)$ は完備束。
- $\bigwedge_i H_i = \bigcap_i H_i$.
- $\bigvee_i H_i$ は $\bigcup_i H_i$ が生成する部分群。

(証明：部分集合 A を含む最小の部分群は、 A が生成する部分群)

完備束の例 2 - 3 : 位相空間の閉集合族

位相空間 X の閉集合の全体 $\mathcal{A}(X)$ は、 \cap -closed だから完備束。ただし、上限は

$$\bigvee_i A_i = \overline{\bigcup_i A_i}.$$